

平成30年度 学 校 評 価

「聖十字幼稚園自己評価公表シート」について

本園では、教師自らが客観的な目で自園の教育・保育を振り返り、主体的に改善に取り組むために課題を明確にすることを目的として、学校評価を実施、公表しています。

1. 本園の保育理念（事業運営方針）

「愛を知り、愛を行える子どもに」

- ① 一人一人の子どもの気持ちや思いをありのままに受け入れ、探究心が膨らむ環境作り
- ② 子育て仲間として保護者同士のつながりを大切にし、みんなで育ちあう
- ③ 地域の子育てセンターとしての役割と幼稚園教育が融合する保育サービスの提供

保育方針

- ・一人ひとりの子どもを大切にする保育を行う。
- ・年次の枠を越えて、神と子どもと先生との交わりの共同体形成を目指す。
- ・子どもたちが神様にいつも守られて愛されていることを知る。
- ・子どもが本当に心から満足して遊べる保育をめざしている。

保育目標

・健康でたくましいからだづくり・あいさつのできるこどもに・食べることを大切に規則正しい生活リズムの確立

学年別目標

0 歳児

生理的欲求を満たし生活リズムをつかむ

1 歳児

行動範囲が広がり探索活動を盛んにする

2 歳児（満3 歳児）

探究心を大切に象徴機能や想像力を広げる

3 歳児

- ・イエス様に愛されていることを感じる。
- ・みんなと共に過ごす楽しさを味わう。
- ・身体全体を動かして、遊んだり、表現することを喜ぶ。
- ・神様が作ってくださった自然に触れ喜びを感謝する。

4 歳児

・イエス様に愛されていることを知り、お祈りをするをよろこぶ。
・一人ひとりが意欲を持って力を出し合い友だちとあそび、生活するたのしさを体験する。
・いろいろな生活経験を通して基本的な力をつけ、豊かな子どもに育つ。

5 歳児

- ・ イエス様に愛されていることを知り、お祈りをするをよろこぶ。
- ・ 一人ひとりが意欲を持って力を出し合い友だちとあそび、生活するたのしさを体験する。・
いろいろな生活経験をを通して基本的な力をつけ、豊かな子どもに育つ。

2. 本年度重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画（『私立幼稚園の自己評価と解説』の自己評価項目活用）

学校評価の主旨を理解し、自己点検・自己評価を実施。教師自らが客観的な目で自園の教育・保育を振り返り、主体的に改善に取り組むために課題を明確にする。

※評価項目は『私立幼稚園の自己評価と解説』の自己評価項目の一部を参考とし、認定こども園でありため、自園独自の項目も設定

※評価結果の表示方法・・・ A：達成されている B：概ね達成されている C：取り組まれているが十分でない D：取組が不十分である

3. 評価項目の達成及び取組み状況

	評価項目	結果	取組み状況
1	保育の在り方（計画性） 幼児への対応	B	子供たちの自主性、探求心を重んじ、褒めることを大切にしつつ、時期を意識した教師の言葉のかけ方・タイミング等、幼児への解りやすい働きかけを念頭に指導計画を立案・実践したが、2号認定園児への対応が不十分であった。
2	教師としての資質や 保育の質の向上	B	教師として自覚を持ち、新たなことに挑戦する積極性をもつなかで、それぞれの力を発揮し、真面目に保育に取り組むことを目指したが例年通りの意識からの脱却はできなかった。それぞれ経験を積み自信が出てきた分、さらなるチャレンジ精神が必要となる。
3	保護者への対応	B	情報提供がタイミングよくでき、保護者との情報交換をよくできた。いろいろ行事による生活経験をを通して豊かな子どもに育つ期待に応えることができています。時間をかけた手書きのクラスだよりも重要であるがパソコンや印刷機の利用なども求められる。

4	預かり保育 子育て支援の充実	B	平成29年度より認定こども園となっているため、本園保護者の生活スタイルも考慮し、今後実施日や時間帯を検討してきた。預かり保育の時間や回数等、長期休暇中の預かりを増やして実施するなど様々な試みができたが十分に対応しきれていない。
5	研修と研究	B	平成29年度から認定こども園となり、組織や制度の変更については全員で学ぶ機会を持つことを予定したが不十分な結果となった。0歳～2歳の保育と3歳～5歳の保育について共通の勉強会をする必要があったが結局0歳～2歳の保育での学びとなった。
6	安全保育・安全点検	◎	聖十字幼稚園は2011年3月11日・東日本大震災発生時の長期振動の大きな揺れがあり、それからほぼ3カ月後の6月30日、東日本大震災の誘発地震とされる長野県中部地震（震度5強の直下型地震）が松本市を襲った。このことを教訓に、防災訓練を重視。今年度は毎月実施し、そのうちの1回は保護者との引き渡し訓練を実施している。
7	保育の振り返りと 自己点検・自己評価	◎	平成29年度からは、評価シートを改訂し、評価シートにおいても、率直に意見が言えるような雰囲気作りに努めた。点数では表せない思いや成果、悩みを感じ取ることができることを目標とし、一定の効果があった。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B-	30年度入園募集は高調であるが「施設設備だけでなく保育内容」という目に見えない環境の大切さを実感した。1913年から100年以上続く聖十字幼稚園の保育の伝統を生かしながら、時代や環境に適応したキリスト教保育の実践を確かなものとする必要がある。一人ひとりの子どもを大切にす保育を行うということは午後4時半や6時半まで残る園児の保育についても検討しなければならない。平成30年度は、年次の枠を越えて、神と子どもと先生との交わりの共同体形成を目指していくことができた。認定こども園になって2年目となり、園児数とともに教職員数も増加し、保育園棟や新マリア館など新しい施設も整備されたが、連絡・調整が不十分となった。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
保育の在り方（計画性）	認定こども園となり、主幹保育教諭制度が年度当初に設置されたが、主幹保育教諭の環境の変化の対応力における保育の在り方が根本的な課題となった。2019年度は環境の変化を見越した計画性を重視し職場環境を設定する。
安全保育・安全点検	幼稚園棟園舎も建築後20年経過し、幼児の視点に立った安全点検と園庭の使用法道具等において見直した。また、今年度補助金によりジアイーノを保育園棟に導入し来年度は幼稚園棟に導入する。
防災対策の見直し	園舎での避難経路の確認と避難計画の見直し。特に避難訓練は毎月実施し、園児が避難になれる状況を構築する。地域との連携をより強化する必要がある。

6. 学校関係者の評価（平成30年度）

理事会において、自己評価を公開し意見を求めたところ、特に指摘するべき事項はなく、妥当であると認められた。

●意見の主な内容（平成31年3月23日実施）

評価項目	自己評価の点	
保育の在り方（計画性） 幼児への対応	B	・キリスト教保育を重視した教育方針には共感。愛のうちによろこんで生き自分の力で発見し創り出しつつみんなと共に伸びてゆくことの大切さをさらに知らせてやって欲しい。0歳～2歳児に対する保育について内容の充実が見られた。
教師としての資質や 保育の質の向上	B	・今後もさらに、法人として、聖十字幼稚園と稲荷山幼稚園の保育の質を高めて、互いの情報を交換して欲しい。

保護者への対応 地域社会とのかかわり	B	・園だよりなど丁寧なやりとりがうかがえ、保護者に対して親切な対応をしている。丁寧な対応と文書作成の効率化を両立するものであり、その点の意識が足りない。行事ごとに地域の方々に挨拶していることも好感がもてる。
子育て支援や 預かり保育の充実	B	・送迎の時間で保護者との会話を重視している点は良い。預かり時間等、どのような時間を求めている保護者が多いのかを検討できていて改善が必要である。
研修と研究	B	・聖十字幼稚園のキリスト教保育の伝統を守りつつ、時代に対応するには、積極的な研究が必要である。今後とも長期的な視野にたって研修を心掛けてほしい。
防災対策見直し	◎	・保護者との引き渡し訓練をしていることは実践的で非常に良い。避難訓練は今後とも毎月実施するように努めてほしい。地元と協力した避難訓練等、計画してほしい。
自由記載 保育の振り返りと 自己点検・自己評価	○	・1913年から100年以上続く聖十字幼稚園の保育の伝統を生かしながら、時代や環境に適応したキリスト教保育の実践をしているかどうか、認定こども園になったときに、その真価が問われる。認定こども園になることを契機に環境の変化に対応した保育の在り方を検討すべきである。

上記のように総評をいただきました。

平成31年度は認定こども園になって3年目を迎える年であるので、時代や環境の変化に応え責任を持って保育に努めるよう、理事の皆様からご意見をいただきました。

7. 財務状況

公認会計士により、適正であると認められている。